クラウドサービスとソーシャルメディアのリテラシー教育

笹谷 康之*1
Email: sasatani@se.ritsumei.ac.jp

*1：立命館大学理工学部環境システム工学科

◎Key Words クラウドサービス，ソーシャルメディア，情報リテラシー

1. はじめに

仕事では，タブレット，スマートフォン等のモバイル端末を用いた空き時間の有効活用が普及している。また，ソーシャルメディアが就活に使われることが拡がっている。しかし，多くの学生は，これらに対応できていない。Web ライティングや，写真，地図，動画を同期・共有する，ネット上での総合的なデジタル表現が求められている。そこで，大学の 7 回の比較的短い授業回数で，Google のクラウドサービス，Facebook，ブログを活用するリテラシー教育を行った。効率的な作業を行うために PC とモバイル端末を同期させ，グループでの学びを促進するためにマルチメディアの成果品を共有する演習を試みた。このマルチメディアデータの入手，蓄積，編集，発信のプロセスを重視した，大学での情報リテラシー教育を報告する。

2. 方法

2.1 対象

受講学生は，立命館大学理工学部環境システム工学科の新カリキュラムの「データ処理演習」を受講する 2 回生 65 名である。2013 年 4 月 9 日から 7 回を B クラス 29 名，5 月 28 日から 7 回を A クラス 36 名が受講している。なお本稿では，前半の B クラスと，後半の A クラスの 3 回目までを報告する。なお筆者とともに，授業補助のための TA が 3 名担当している。

2.2 授業内容

出身地の魅力の表現が，全体のテーマである。7 回の授業のテーマと内容を，表 1 に示す。

表 1 フォントとポイント

回	テーマ	内容
1	クラウドコンピューティング	Gmail，Google ドライブ，Google+
2	SNS	Facebook，情報倫理
3	Web ライティング	滋賀咲くブログ，マインドマップ，Web ライティング
4	画像	写真撮影，PictureManager
5	動画	iPad を用いた動画の撮影，iPad から YouTube への投稿，YouTube 動画の編集
6	地図	地図・空中写真閲覧サービス，Google マイマップ
7	プレゼント	全体の改善，相互投票

1 回目は Google Apps を用いて，1 回生時に行った Gmail，Google ドライブの復習と，Google+の写真の保存・共有を行った。2 回目は Facebook アカウントを取得させて，基本操作と 4 人の班での Facebook グループの操作を体験させた。3 回目は地域ブログである滋賀咲くブログに登録させ，Web ライティングのコツと，記事作成のアイデア出しのマインドマップを教え，記事投稿の宿題を課した。4 回目は構図を教え，ブログや Facebook の写真をブラッシュアップさせた。5 回目は，班ごとに iPad を渡し，出身地の魅力の 1 分間スピーチを相互に撮影させ，YouTube に投稿させ，YouTube 上での編集を教えた。6 回目は，地図・空中写真サイトからの出身地データの入手法と，Google マイマップの編集法を教えて，これをブログの記事に埋め込ませた。7 回目は，全体の改善をアドバイスして優秀作品を投票させた。

2.3 アンケート設計

AB 両クラスとも初回の授業で，Google ドライブのフォームを用いて，ガジェットの所有と，利用経験を問うアンケートを行った。

2.4 相互評価

7 回目の授業の後，最終成果品であるブログと動画について，他班の最優秀作品 1 点，優秀作品 2 点と，その理由を問う，Google ドライブのフォームを用いた宿題のアンケートを行った。

3. 従前のガジェット所有と ICT スキル

3.1 ガジェット所有

全員が携帯電話を持っており，スマートフォン所有者は 94%だった。スマートフォン所有を前提とする教育条件が整ってきた。タブレット端末の所有者は 5%にとどまった。今回は問いかけていないが，過去数年のアンケートでの PC の所有率，ネット接続率は，95%を超えていた。PC があれば，タブレット端末を所有する必要がないと学生は考えているようだ。

表 2 ガジェット所有

ガジェット	所有者数	所有率（%）
スマートフォン	61/65	94
タブレット端末	3/65	5
デジタルカメラ	22/65	34
男子 デジタルカメラ	7/48	15
女子 デジタルカメラ	15/17	88

デジタルカメラの所有率は，男子が15%，女子が88%と，性差が大きく開いた。当の女子学生は「楽しかった思い出を，写真を通して思い出したり，ほかの人と共有するために写真を撮るのだと思います(^O^)カメラだとより鮮明に残せるし，スマホで撮るより，1枚1枚の価値が高くなるような気がします！」「スマホは簡単に写真を撮ることができますが，やはりカメラの方が画質が良くて，思い出をたくさん撮って保存でき，見返すことができるようにカメラを所持しています。」と記している。

3.2 ICT スキル

既に Facebook を始めていた学生は 43%だったが，Twitter は 22%にとどまった。就活の利用が増えていることへの対策や，友達同士でのコミュニケーションの促進に，Twitter よりもライフログが残る Facebook が使われているものと考えられる。

ブログを行っていた学生や，YouTube 動画を投稿した経験がある学生は，1,2 名と限られていた。ブログは，ほぼ Facebook に代替され，世の中ではやっているネット動画とはいえ，自身で投稿するまでには至っていないことがわかる。

後半の A クラスで，Android フォン所有者 20 名に取ったアンケートで，筆者が与えた Google Apps 以外で所持する Google アカウントを答えられた学生は，40%にとどまった。学生は Google のスマートフォン向けサービスをあまり利用していないことがわかる。

表 3　ICT 利用

ガジェット	利用者数	利用率(%)
Facebook	28/65	43
Twitter	14/65	22
ブログ	1/65	2
YouTube 投稿	2/65	3
Android 所有者の Google アカウント理解	8/20	40

4. 演習の成果と課題

1 回生時に体験させ，この授業で丁寧に説明しても，Gmail 添付と Google ドライブ保存ファイルの共有の混同，Google ドライブの写真保存と Google＋の写真保存の混同が多かった。また，Gmail の件名が記せないという PC メールに慣れない学生が依然としていた。こういった学生に，基本的な操作を繰り返し教えて修得させることが必要だ。

Facebook の基本操作には，ほとんどの学生がすぐに慣れた。似顔絵または友達と集合でなく個人で写るプロフィール画像と，出身地の風景やクラブの集まりなど適切なカバー画像を，大半の学生がすぐにアップできた。自班の Facebook のグループ内で教え合うピアラーニングが，難しいようだ。

Web ライティングは，学生にとって最も難しい課題であった。詳細な文章作成のチェックリストを渡して，全体構成，文章形式，簡潔性，具体性，客観性，推敲方法を指示したが，学生はほとんど確認しない。最も重要な，文章の内容が一目でわかる新聞の見出しのようなタイトルを書くように指示しても，2/3 の学生が抽象的で読者が読みたいと思わないタイトルを記す。タイトルで訴求点を明確にして，これに沿ってタグ，写真のキャプションを記してから，本文を記すように指示しても，自分の体験に基づかない，日ごろ訪れない近所の名所を並べて記す学生が多い。国語教育には時間がかかる。

写真は，1 回生時に既に Photoshop のレタッチを教えており，撮影法と，Picture Manager を用いて自宅の PC でも簡易なレタッチができることを示すことで，クオリティを上げることができた。女子学生が高画質のデジタルカメラに拘ることをより上手に活用する工夫を考えなければならない。

限定公開でアップロードと断っても，YouTube 動画に撮られることに抵抗があると学生は言うが，実際は動画撮影が最も盛り上がる授業だ。iPad で簡単に動画を YouTube にアップできることを知り，自身のスマートフォンで初めて動画をアップロードする学生が多い。9.7 インチの画面を班員で共有してから，自分のスマートフォンで操作を確認できることは，効果的である。盛り上がって授業が騒がしいために，横長構図，安定して見られるフィックス，既存の静止画をタイムラインに挿入して編集など，基本的なことを聞き逃し，縦長の動画などが提出され，課題の再提出が多い点が悩みだが，多くの学生が面白がって取り組む。

地図は，筆者の学科では必須のアイテムであるだけでなく，地図を使った多様な分野で進む位置情報サービスが，2015 年には 10 兆円市場になると言われている。国土交通省国土地理院の古い地形図や空中写真から，土地の履歴を調べ，出身地の魅力の根拠を考えさせて，ブログに追記させた。これらの内容をもとに，Google マイマップを作成して，ブログに埋め込ませた。

全体を通じて，マインドマップからネタを仕込み，撮影，ネットワーフ等のデータの入手段階，これを Google のクラウドサービスに保存して班で共有する蓄積段階，動画の編集やブログに Google マップや昔の地図・空中写真を埋め込む編集段階，ブログや YouTube 編集動画の公開段階を体験させることができた。

先行する B クラスの相互評価では，ブログの優秀作品の投票は分散し，それぞれの学生の出身地の魅力の表現を多用に評価していた。YouTube 動画は，明確なストーリー性がある 2 名の作品に，好評価が集中した。

5. おわりに

Google サービスと Facebook を使って，スマートフォンで効率的なフィールドワーク，モバイルワークに慣れさせるきっかけとして，この新カリキュラムの授業は効果的だったと言える。また，ブログを使って，総合的なマルチメディア表現ができることを，学生に実感させられた。

より，同期と共有を意識して操作させて，データの入手，蓄積，編集，発信のプロセスを意識させる工夫が必要だと感じている。 特に，ストーリー性のある統合的なコンテンツが制作できるための企画能力開発の理論と手法が必要であろう。